

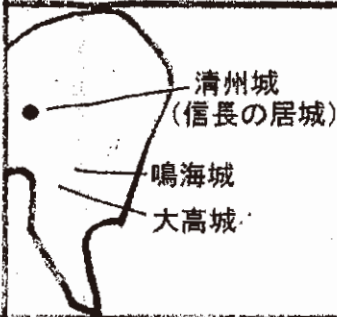
鷲津砦興亡記

作画：大橋由起子

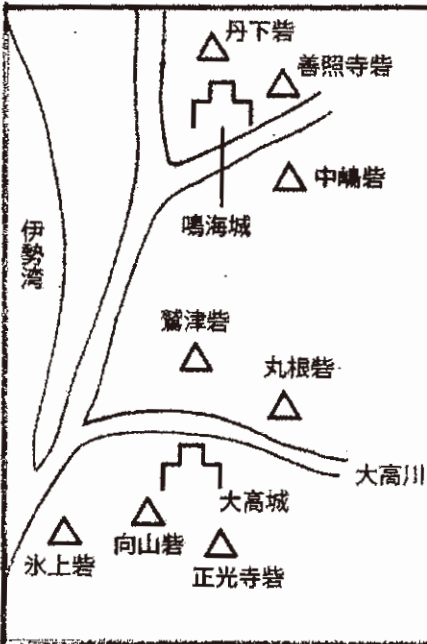
尾張の織田家と
駿河・遠江・三河を
支配する今川家は
長年にわたり
国境争いを
続けていた



情勢は次第に
今川優勢に動き
尾張領内の
大高城・鳴海城は
今川の手落ちた



織田信長は對抗措置として、大高城と鳴海城の周囲に
砦を築き、両城への補給を遮断した



伊勢湾

永禄三(一五六〇)年

織田家を潰す

五月十二日

今川義元は

三万の大軍を率い

駿河を出発



今川義元

とうとう
来たか

織田信長

信長は各砦に
諸将を配置した

鷲津砦を守るのは

信長の大叔父・織田秀敏

津島港の交易を担う

経済官僚である



秀敏は、信長が「うつけ」と

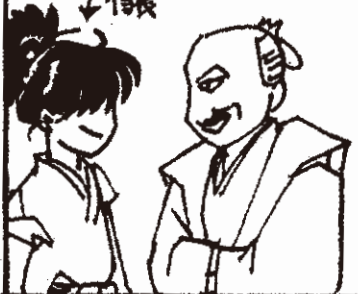
呼ばれていた頃から

彼の経済的才能を見抜き

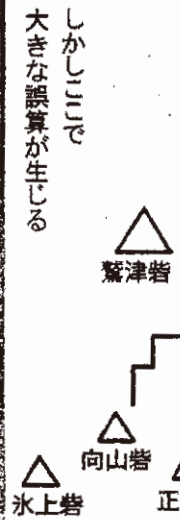
支え続けてきた

大事な身内であった

時代のうつけ
↓
信長



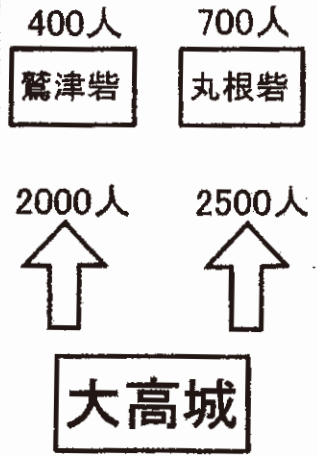
大高城を囲む各砦の主な役割は
丸根砦が指令塔
鷺津砦が補給基地
残りの砦が補助



向山砦・正光寺砦を守っていた
水野氏や知多の国人が
今川と内通し
砦から逃げてしまった
のである



これにより、今川方の松平軍が
大高城に兵糧を運び入れ
両砦に対し、数倍の軍勢で対峙した



しかし、今川の動きを
探っていた信長は
安易に動けず
援軍を出せなかった



鷲津砦

清州からの
援軍は
望めそうに
ありません

そうか
……

十九日未明
今川が攻撃を開始

丸根砦の
佐久間盛重軍は
深く討つて出
玉砕した

鷲津砦で籠城していた
秀敏軍だが……

敵が
砦に
侵入
!

致し方ない。

ここを

死に場所と

定め、

各々

立派な

働きを

残すべし

ははっ

もはやこれまで。

皆々華々しく散るぞや



秀敏以下総勢四百名
皆討ち死にし、砦は落ちた



殿、あの煙…
鷲津・丸根は
落ちましたぞ…

信長

助けられ
なかった…

すまぬ…

鷲津・丸根の
者達の死を
無駄には
するな！
必ず義元の
首級を挙げる
のじゃ！



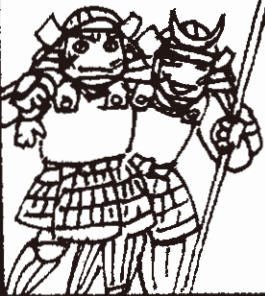
おおっ

主従一丸となって激戦の末
ついに織田軍は今川義元を
討ち取った



更に朗報が入る

父・飯尾定宗と共に
鷺津砦を守っていた
飯尾信宗・重宗兄弟が
生還したのである



よくぞ
生きて帰った
!



喜んだ信長は
信宗に自分の妹を娶らせ
重宗を側近に迎えた



後に「桶狭間の戦い」と呼ばれた
この戦の陰では、多くの命を散らせた
鷺津・丸根両砦の犠牲があったことを
我々は忘れてはならない

おわり